

司式 熊田雄二牧師

奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 40:1 み栄えは主にあれ

み栄えは主にあれ 恵みの御神は 死の陰に座したる み民をかえりみ
み救いをもたらし み殿を清むる 輝ける使いを 遣わしたまえり アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 40:2 み栄えは主にあれ

み栄えは主にあれ 罪人を赦す 限りなき恵みは 新たに示され
掟より解かれし自由の喜び 主に頼る心に再び溢れぬ アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書37 宗教改革記念日(10月最終主日)

歴史を支配しておられる神さま、あなたの御前に、次々と信仰の世代が起こされていきます。あなたは、過ちの多い神の民を、忍耐と励ましをもって導いてくださいました。それゆえわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができ、深く感謝します。宗教改革の指導者たちは、「聖書のみ」の精神に立ち、あなたの御言葉の全体が真理であると告白しました。まことに、「あなたの御言葉はわが足のともし火、わが道の光」です。それゆえ、わたしたちは、絶えず御言葉にたちかえり、信仰と教会を改革し続けることができますように。

(ローマ15、詩編119)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 盛岡伝道所 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書10章38～42節 (新約聖書127頁)

説教・祈祷 「必要なことはただ一つ」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 40:3 み栄えは主にあれ

み栄えは主にあれ ちからのもとなる 栄えあるみふみは 我らの手にあり
世の智者よ退け 聖なる御霊は その旨を親しく解き明かしたもう アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67 主イエスの恵みよ

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ
ああ みさかえよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老 (司会・受付 次週: 門脇猷一長老)

本日 受付 1階: 若月学執事 2階: 加藤良明執事 / 動画: 番場駿也兄弟 録音: 森永翔馬兄弟
次週 受付 1階: 大日南信也執事 2階: 大日南隆夫執事 / 動画: 森川莞太兄弟 録音: 大日南悠兄弟

Ⅰ 「手伝ってくれるようにおっしゃってください」

❶ まず、この箇所を読んで驚くことは、マルタのセリフです。40節「**主よ、私の姉妹は私だけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。**」 イエス様に文句を言うことが、まず驚きです。また、文句を言えるほど親しい間柄であるというのも驚きです。

マルタとマリアの話は、とても印象的なシーンなので、福音書のあちこちにありそうですが、二ヶ所しかありません。ルカ福音書10章のきょうの箇所と、ヨハネ福音書の11～12章です。そして、この姉妹たちはイエス様と特別親しい間柄にあることは、ヨハネ福音書の方を見ないと分かりません。ルカのこの短い文章では分かりません。

ヨハネ福音書11～12章は、「ラザロの復活」の所で、ラザロはマルタとマリア姉妹の兄弟でした。そして、この三人はイエス様と特別親しかったことが「ラザロの復活」で分かります。「イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。」（ヨハネ11：5）。

また、この三人兄弟が住んでいたベタニア村は、「エルサレムの近く」で15スタディオン離れていました（ヨハネ11：18）。1スタジアム200メートルとして3キロの距離です。ここを、イエス様は、最後のエルサレム入りの拠点とされました。つまり、イエス様一行は、ガリラヤからサマリアを通過して、いよいよユダヤのエルサレムに近づいて来たのでした。イエス様が「もう一度、ユダヤに行こう」と言われた時、弟子たちは驚いて、「先生、ついこの間、殺されそうになったばかりじゃないですか。エルサレムの方に行くのは危険です」と言った、緊迫した場面です。

❷ ついでながら、妹のマリアと混同しやすい人物のことを整理しておきます。イエス様の葬りの備えをするために、ナルドの香油をイエス様の足に塗って髪の毛でぬぐったのはこの妹のマリアだと、ヨハネ福音書は伝えています（ヨハネ12：1-8）。同じ記事がマルコ福音書とマタイ福音書にありますが（マルコ14：3-9、マタイ26：6-13）、名前が書いてありません。「一人の女」と言っているだけです。

ルカ福音書にはナルドの香油とは書いてないですが、紛らわしい話があります。すでに学んだルカ7：36-50の「罪深い女」の話です。これも名前が出て来ません。「一人の罪深い女」と言っているだけです。

この女が香油の入った石膏の壺を持って来て、涙ながらにイエス様の足に香油を塗って髪の毛でぬぐいました。そして、ルカ8章にイエス様一行の世話をした婦人たちのリストがありますが、2節に「七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と言われるマリア」という人がリストに載っています。この人が「罪深い女」ではないかとする向きもあります。

マルコ・マタイの福音書では十字架の場面で「マグダラのマリア」が婦人たちのリストにあり（マタイ27：56、マルコ15：40）、墓に葬られた場面にも「マグダラのマリア」がいます（マタイ27：61、マルコ15：47、ルカ24：10）。ヨハネ福音書では、復活のイエス様に最初にお会いしたのは「マグダラのマリア」でした（20：11-）。そこで、マリアという名前が出てくる「ベタニアのマリア」と「マグダラのマリア」を混同しそうになるわけ

です。とにかく、マリアという名前が多いです。

II マルタ

38節「一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。」ルカにしてはたんと描いています。「ある村」とはベタニア村ですが、この福音書の宛先はローマ帝国の高官「テオフィロ」閣下ですから、イスラエルの小さな村の名前など言っても意味が無いと思ったかもしれません。

「すると、マルタという女が、」と、いきなり登場してくるようですが、初対面ではなく、親しい間柄であることは、すでにヨハネ福音書から確認しました。マルタは、すでに、イエス様一行を迎える準備をしていたのでしょう。妹のマリアもイエス様一行が到着するまでは、お手伝いしていたでしょう。

さて、イエス様一行は何人くらいでしょう？ 12弟子、他に72人の弟子が派遣されたという話を讀んだばかりですので、全員だとすると、 $12+72=84$ 人。これにイエス様が加わって85人。全員ではないとしても、弟子たちを世話する婦人たちも、少なからずいます。

婦人たちが何人くらいいたかは、8章2-3節「悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。」

すると、イエス様、十二使徒、72人の弟子、奉仕する婦人たちで、総勢100人位いた可能性もあります。マルタの叫びは当然でしょう。一度に100人の接待です。200円の昼食をしばらくやっていませんが、あれを礼拝後一人でするなんてことはあり得ないでしょう。

もっとも、御一行様の中に奉仕する婦人たちがいましたから、マルタを手伝ってくれるでしょう。それでも、多くの婦人たちに何を手伝ってもらうかだけでも大変でしょうから、マルタは「いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いて」いました。妹のマリアにイライラしてきたのは当然でしょう。

しかし、もう一度よく読んでみると、マルタのセリフは変です。「**主よ、私の姉妹は私だけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。**」何が変でしょう？ そんなこと妹に直接言えばいいのに、イエス様に文句を言いながらお願いしていることです。

ということは、マリアに言ってもダメだと分かっているわけです。マルタはマリアがどんな人間か知っているのです。小さい頃から、妹の性格を知っているのです。その性格に逆らえないことが分かっているのです。だから、イエス様をお願いしましたが、イエス様は、妹の性格に逆らうなと言われました。大切な一つのことに集中することに逆らうなと。

III 必要なことはただ一つ

イエス様は言われました。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを

取り上げてはならない。」

イエス様がマルタに迎え入れられて、まずなされたのはお話でした。「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という福音宣教を、十二使徒を遣わし、72人の弟子を遣わしてなさっていましたが、今ここではイエス様御自身がなさっています。イエス様がお話をなさっている時、何をすべきかは明らかです。

この箇所は、通常、マルタが悪くてマリアが良いという説教がなされるので、マルタのような人も必要だと、フォローするような説教が時々聞かれます。それは実際、教会には婦人が多くて、せわしく立ち働いている婦人たちへの配慮が必要だと思うからでしょう。しかし、そうすると、マルタ的な人とマリア的な人に分けることになります。

ここは、やはり、イエス様が言われたことを割り引いたりせずに聴く必要があります。イエス様が話をしておられる時は、イエス様の足もとに座って、その話に聴き入るべきなのです。だから、「必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」のです。

つまり、マルタ的な人も必要だ、などとおっしゃっていないのです。「マルタ、あなたも座って聴きなさい」とおっしゃっているのです。教会にはマルタ的な婦人たちも必要だなどとフォローしてはならないのです。婦人たちをマルタ的な人とマリア的な人に分けてはならないのです。イエス様は、婦人たちだけに当てはまることとしてお叱りになったわけではありません。

せわしく立ち働くに時があり、座って静かに話を聴くに時があります。「神のなされることは皆その時にかなって美しい」のですから（伝道の書3：11）、マルタのふるまいは美しくなかったのです。イエス様一行の中にいる婦人たちも、イエス様が話しておられる時は静かに話を聴いていたでしょう。話が終わったら、マルタとマリアを手伝ったことでしょう。

せわしく立ち働くに時があり、座って静かに話を聴くに時があります。これには男女の別はありません。現在お休み中の200円の昼食ですが、婦人たちだけが立ち働いているわけではありません。男性も女性も立ち働いています。それを礼拝中にしてはいけないのです。2階で礼拝しながら1階ではカレーやおにぎりやサンドイッチを作っている。そんなことをしたら、この建物は美しくなくなります。

「神のなされることは皆その時にかなって美しい」は『口語訳聖書』「伝道の書」の言葉ですが、『新共同訳聖書』「コヘレトの言葉」では「神はすべてを時宜にかなうように造り」とそっけない訳し方をしました。『聖書協会共同訳聖書』「コヘレトの言葉」では「神はすべてを時に適って麗しく造り」と挽回しています。